

## 第 60 回土木学会水工学講演会で研究成果を発表しました(2016/3/14-16)

テーマ：水工学講演会

場所：東北工業大学八木山キャンパス

2016年3月14日～16日に、土木学会水工学委員会主催の第60回水工学講演会が東北工業大学八木山キャンパスで開催され、有働恵子准教授、呉修一助教（以上、災害リスク研究部門）、山下啓助教、安部祥助手（以上、寄附研究部門）が参加しました。

水工学講演会は、日本における水工学の最も権威のある講演会として、水災害、XバンドMPレーダ、降雨予測、全球スケールでの大気水循環などのトピックを含む、水理学・水文学、河川工学、河川環境等、非常に幅広い諸問題に関する発表・討議を行います。

本講演会中に開催された第28回アゲールシンポジウムでは、有働恵子准教授が「**将来の砂浜消失予測と適応策**」というタイトルで講演を行い、河川災害に関するシンポジウムでは当研究所の平成27年関東・東北豪雨での調査結果が田中仁教授（工学研究科）によって報告されました。それ以外にも以下に示す研究成果が発表され、その成果は土木学会論文集B1（水工学）、Vol.72, No.4に掲載されています。

佐藤兼太，越村俊一：格子ボルツマン法による津波数値解析に向けた無反射透過境界条件の基礎的検討

I. Moe, S. Kure, K. Udo, S. Koshimura et al. : Evaluation of Flood Inundation in Jakarta Using Flood Inundation Model Calibrated by Radar Rainfall（洪水モデル・レーダ雨量を用いたジャカルタ洪水氾濫要因の評価）

（下線・太字は研究所構成員）



口頭発表の様子



有働准教授の講演の様子

文責：呉 修一（災害リスク研究部門）